

## 第7回 高梁市地域防災力向上委員会 発言要旨（主なもの）

日時：令和5年 6月 8日（木）

15時00分～17時10分

場所：高梁市役所本庁 3階大会議室1

### 1. 開会

### 2. あいさつ

（三村委員長）

平成30年7月豪雨災害を受けて、令和元年11月26日に第1回委員会を開催して、7回を数える。かなり具体的に皆様方のご協力をいただき、地域の皆様の声を踏まえて、良い内容に仕上がりに近づいていると思います。自由活発な意見をいただき、進めていきたいと思っております。

（近藤市長）

「災害は忘れたころにやってくる」という時代ではなく、「災害は忘れないうちにやってくる」ということをしっかり頭に叩き込む必要があります。そして各地域でどう自分たちの身を自分たちで守るのが問われるところです。自主防災組織は、ただ組織ができるだけでなく、組織がしっかり動くことを確認していかなければなりません。地域の防災力が高まれば高まるほど、より安心して安全なまちになるわけで、平成30年7月豪雨の時、真夜中に高梁市が経験したことを忘れないようにしなければならない。自主防災組織の組織率の目標を100%と掲げている以上、この委員会の方で、高梁が本当に安心安全なまちになったと言ってもらえるよう一層のご奮闘・ご尽力賜らんことをお願い申し上げます。

### 3. 委嘱状交付

### 4. 議題【各項目についてそれぞれ事務局から説明後、意見交換】

（1）高梁市地域防災力向上委員会の活動状況について

<意見交換>

（三村委員長）

自助と共助、自分たちのまちは自分たちで守るぞということをベースとしながら公助では支えていくという大きな流れで展開している取り組みが具体的に紹介されました。いかがでしょうか。

（中村委員）

北山町内自主防災会は平成30年水害の前に設置されました。北山にはため池が3つあり、日頃から非常に危険だと話をしていました。会を設立したら、7月に水害となったので、

地域の皆さんの協力も得られて、タイミングはすごく良かったと思っています。町内に 500 人以上の人がいて、もちろん職種も様々で、皆さんの協力が得られるので、様々な内容の活動ができています。子どもさんもたくさんおられるので、先々月には起震車体験を行ったり有意義な訓練ができました。

#### **(角銅委員)**

先ほどから自助、共助、そして公助という言葉が何度も出ておりますが、落合地区の場合は、自助・共助において、地域の方は昭和 47 年の大災害の時の状況を非常によくご存じで、平成 30 年の時もいち早く避難ができた。しかし高齢者の方においては、その後環境の変化により認知症を発症したり、家屋の被災により施設へ入所されたりと、未だに災害による傷跡というのが目に見えないところで残っている状態です。その辺りを考えるとやはり防災の大切さを十分考えていかないといけないというところです。

#### **(横林委員) 代理 石村**

災害時において、福祉委員と民生委員の連携により避難の支援が必要な方を事前にピックアップし、早めの避難行動がとれるようにということで自主防災組織の取り組みのご報告をしていただいたのですが、その中でも、民生委員さんと福祉委員さんの連携ということもしっかり内容に入れてもらえたらいいかなと考えておりました。

#### **(三村委員長)**

確かに市の職員だけでは、絶対に手が回りませんので、地域の民生委員の方々、福祉委員の方々なども含めて広い意味での公助というか、共助側でブリッジをかけるという立場の方もとても大事になってくるというのを感じました。

#### **(蜂谷委員)**

子どもさんや若い方が取り組みやすいようなイベントをしていただくことになりましたら、堅苦しくないところで広報など協力させていただきたいと思います。また、東京ホテルソンさんというお笑いタレントさんを起用した防災動画を作って、市へ納品させていただきました。防災というのはなかなかとつきにくいという点もありますが、そうはいっても命を守るものなので、お笑いだったりそういったものも利用して少しでも手が届くもの、耳を傾けていただける状況を作ることが私共のやることかなと改めて思っております。

#### **(氏原副委員長)**

前回の委員会の時に「防災都市高梁を目指す」くらいの気持ちでやりましょうと申し上げて、行政の方もたくさん取り組みをしていただいている。ただ、ここまで高梁が防災の取り組みをしていると知っている市民の方は少ないのではないかと。高梁市として防災をしっかりやるんだと、防災都市高梁を目指すんだと。そういった計画も立てるし、きちんと運用していく。というのが今一つ行政の方から伝わってこない。これは結構問題だと思っていて、たくさんのことを行っているのだけど、それをうまく PR できていないという実態もあるし、市民の方々も情報をキャッチできていない。やっていることをきちんと市民に伝えていくことも、防災計画の中のひとつとしてあげてもらって、進めていく必要があるのではないかと。

表面的かもしれないけれど、「防災都市高梁」というポスターを貼るなど、頑張っ  
てやっているという気持ちを伝えることが重要だと思うので、そういった取  
組みをぜひ進めていただきたいと思っています。

#### (末永委員)

今まではホームページなどで一方的に情報を発信してきましたが、おっ  
しゃるようになってきている感じがしています。一方的な情報発信ではなく  
地域に寄り添う形で、真備地域では行政が地域の様々な協議会の中に入  
っていて、そこに入って何か行政側から発信をするというよりも、皆  
さんが発言されるなかで、疑問が出たときに答えたりする活動をして  
います。これを約5年続けてきた中で地元の方から「国交省も変わった  
ね」という声を最近少しいただけるようになってきました。また、地区  
防災計画の中に川の防災情報やキキクル、これをベースにしようとい  
うことも入っていたのですが、例えば、川の防災情報の何を、どこの  
情報を見れば良いのか、近くの川の水位情報だけを見るのではなく上  
流の川の情報を見るということなどを示すことが大事で、地域とのか  
かわりの中でやっとそういったニーズや、地元の人たちが本当に欲  
していることが少し分かってきました。

#### (三村委員長)

やはり、自助・共助があるなかで、公助と自助、公助と共助とをどう  
ブリッジをかけるか。特に、何かあった時に国や県や市は本当に助けて  
くれるのかという不安も市民側は持っている。寄り添う活動というの  
を一步一步進めることが、この防災の中ではとても大事な活動になる  
。命を守るという共通の言葉のなかで、高梁川は新見の花見山から水  
島までどういった形で情報のリレーをするのか、我が事としてみんな  
で助け合う。特に高齢者や認知の方が増えてきておりますので、そ  
ういったことを全体で考えあげられるような活動ができればいいの  
ではないかと思えます。

### (2) 自主防災組織育成設立、活動マニュアル案について

<意見交換>

#### (加藤委員)

消防団は、表向きは火を消すことを仕事としておる団体ですが、裏  
には水防団も兼任しております。自主防災組織の活動をいろいろとさ  
せていますが、その裏にはその地区の消防団員が参加してバックア  
ップやお手伝いをしております。次の日曜に予定されている大規模  
水害対策訓練では、各地区の分団長が各地域の代表と事前相談のう  
え一緒に行います。連絡をどうするかがメインにはなりますが、各  
地区にどのような資材があるとか、足りないものはないのかなどが  
改めて分かるのも訓練の場だと考えております。また、AR 浸水  
疑似体験は、かなりいい体験になると思っていて、特に高梁市は全  
域が浸水したわけではないので、自主防災組織の方にもこれを体験  
してほしいなと思いました。

#### (三村委員 (消防団))

女性消防団では、少し前に発表させてもらった寸劇でこの度 DVD  
を作成中なのですが、吉

備ケーブルさんの方で放送してもらいたいという話も会議で出ており、女性消防団もこんな活動をしているんだよということをPRしたいと考えています。そして女性消防団員も男性消防団員も増やそうという活動をしています。

#### **(三村委員長)**

寸劇や劇団など地域に密着し様々な活動で防災意識を高める時には、やはりメディアの働きというのはとても大きな活力になると思います。また、真備の復興防災公園の設計にかかわった時に、当初ガラス張りでという話があったのですが、女性の方々から避難所になった時にそこで着替えなどの避難所生活を送るのかという意見があり、避難所における女性のプライバシーというのはとても課題になりました。女性の立場からの意見があればお願いします。

#### **(三村委員 (消防団))**

平成30年の水害の際には、女性消防団が活動している地区と、していない地区があって、統一してほしいという意見もあったのですが、第一に自分や家族の身を守ってくださいという話があったので、活動に行きたいけれども行けないという、ジレンマを抱えて家に居た団員も多数いました。

#### **(氏原副委員長)**

活動マニュアル案の内容について、非常にコンパクトによくまとまっているなという感想で、切り口としては非常に入りやすい構成になっていると思いました。実際の細かい部分になってくると、当然住民の方が主体ですけれども、一緒に作っていただくにはすごく良いものだと思います。ただ、このマニュアルを知ってもらうためにどうしましょう、というところがひとつポイントで、このマニュアルを見れば、きちんと自主防災組織を立ち上げられると思います。でも、市民の方がこれを見ない可能性もある。これをどういった方法で周知されようとしているのかお伺いしたい。

#### **(事務局)**

まず、ホームページや市の広報誌での周知は当然でございますが、自主防災組織を今後立ち上げていただけるような地域に入っていくときには、その中心となる方にこのマニュアルを周知し、しっかり理解していただいたうえでの組織づくりというようなことを考えております。

#### **(氏原副委員長)**

様々な機会で、自主防災組織を作りましょう、組織を作るためのサポートを市がやりますとPRをしてもらいたいと思います。市がサポートもするし、そのための補助制度もあります、というところから入っていただくのがいいかと思います。地域の方に主体的にやっていたかかないといけないので、市がすべてやりますよってという説明になってしまうと、また困るのですが、市がサポートしますっていうことは周知をしていただきたいと思います。

#### **(吉原委員) 代理 吉川**

一貫してマイタイムライン講習会をさせていただいているので、どちらかといえば自助

の啓発活動を中心に活動させていただいて、自助については啓発活動で十分周知はできると思うが、そこから共助へ昇華する、そこまでの枠組みへもっていくということが大変なのかなというのが正直な感想です。自主防災組織を立ち上げることが、結果として共助の部分の第一段階になりうるのか、立ち上げるだけで終わってしまうのかというのが難しい部分かなと思います。

#### **(藤井委員)**

子どもたちがまずいろんなことを知る、そして家に帰って話すことがすごく大切だと思っていて、その際におじいちゃんおばあちゃんは どうしたらいいのかな？ というようなことも話してもらえば、次へ次へつながっていくのかなと思います。そろそろ平成30年の水害を体験していない子が出てくると思うのですが、風化させないという意味で、大変だったことや本当に命が危ないんだということを語り継いでいって欲しいし、そういうことが地域で話されるようになって欲しいと思いました。

#### **(三村委員長)**

子どもは弱者かもしれませんが、実は勇者でもあります。おじいちゃんおばあちゃんを引っぱるだとか、聞いたことはきちんと覚えていて実践もしてくれます。

#### **(三村委員 (公民館長))**

婦人会や長寿会などの教室で防災講話を受けていますので、今後も引き続き活動が続けていこうと思っています。公民館としては「人が集まって、人同士が知り合って、地域がつながりを持っていく」ということが防災においても大切でないかと思っています。特に高梁公民館地域は、外国の方が非常に多く居ます。そういった方々にも、情報を伝えていくことが必要だと今後の課題として考えています。

#### **(菅野委員)**

岡山地方気象台では特に今年度は、要配慮者の支援と流域ごと、地域ごとの災害特性を踏まえて警報の基準等をしっかり見直して、必要なところに必要な警報を出す、必要のないところには出さないということを進める所存です。本日お伺いさせていただいた話の中で、参加させていただきたい活動や、また協力していただきたい活動もあるように思いました。今後こちらからも相談させていただきたいと思ひますし、関連活動等ありましたらお声がけいただければありがたいと思ひます。

#### **(内田委員)**

昨年度は幼稚園、保育園、福祉施設や一般企業まで様々な約100施設から避難訓練や防火講話の依頼がありました。いま私たちは、新しい形の避難訓練や防災訓練を考えており、ARやVRのゴーグルを活用したものや、子どもからご高齢の方までできるようなカードを使ったゲーム感覚でできる避難訓練、防火グッズなどそういったものを使った訓練など様々なものがあります。幼年期の防火思想というものがこれからの人生に大変役立つものと考えておりますので、なんとか防災に興味を持っていただこうと思っています。

(3) 今後のスケジュールについて

<意見交換>

(三村委員長)

進め方についていかがでしょうか。この進め方でいってみるということでよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし

(三村委員長)

また何時激甚災害が襲って来ないとも限りませんので、資料④（A3 横版）の一番右の枠の中に記載のある皆様方それぞれがここはできる、我々の団体でここはやるぞといったことの集大成で、最終的にはそれが自助・共助・公助につながる、助け合いの中から作っていくというような計画を高梁市の防災での肝にしたいですね。

(4) その他

事務局より、7月に高梁市図書館で開催する平成30年豪雨被災写真展のことを紹介。

## 5. 閉会

(氏原副委員長)

防災についての意識が、最大瞬間風速的に数年前には高まりましたが、今また下がってきているかもしれないので、そういった機運を高めるような取り組みをしていかないといけないと思っています。マニュアル案ですけれども、素晴らしいものが出来上がっておりますが、この後、修正の意見を募っていただけるとのことですので、ぜひ様々なご意見を容赦なくいただければと思っております。すでに設立されている自主防災組織から意見を吸い上げて案を作ったということですが、出来上がったものも見ていただいて再確認をお願いするというのもしていただければいいと思った次第です。今後、第8回目の9月にはマニュアル完成という予定になっておりますので、皆さんそれまでに様々なご意見をいただければと思っております。引き続き様々な視点から忌憚ないご意見をよろしく願います。